

●長く大切にされる公共施設を実現するための提言

●同 リーフレット

長く大切にされる公共施設を実現するための提言—Web リリースのコメント

2020.4.15

ご挨拶

日本建築学会「社会の信頼に応える建築の設計者・施工者の選定方式を検討するタスクフォース」の活動の成果が、このほど『長く大切にされる公共施設を実現するための提言』としてまとめられました。これまで設計料入札によって選ばれることの多かった公共施設の設計者や技術者が、それに代わる真に市民に受け入れられ、末長く愛される施設を実現するにふさわしい方法で選定され、情熱を持ってその能力を遺憾なく発揮できるよう、この提言が全国の公共建築づくりに役立つことを心から願っています。

一般社団法人日本建築学会会長 竹脇 出

本提言の公表にあたって

タスクフォースを立ち上げた当時の会長として、2018年より2ヵ年以上にわたって継続してきました、関係者各位の尽力の成果がこうして実を結んだことを、何よりもうれしく思います。戦後、全国をあげて国土の発展をなし遂げた高度経済成長期を経て、今日のより豊かな生活環境を築いてきたわが国では、今やスクラップ&ビルドから、既存リソースを大切に、全国一律ではなく地域に固有の価値の創造を目指す時代を迎えています。そんな中、それぞれの地域に合った最良の建築をつくり、末長く大切に使いながら、これからの時代の変化にも対応して、柔軟に維持更新のできる優れた設計・施工が求められています。

そうした能力を持つ優良な設計者・施工者を的確に選ぶことが何よりも大切なこととなりますが、いかに有能な設計者であっても、その選定のされ方如何ではその能力を十分に発揮できないことがあります。そのためにも従来の入札に代わる、特に若い世代の設計者らをエンカレッジするやりがいのある選定方式を実現しなくてはなりません。この提言には、多様な選定方式の考え方とともに、これからの豊かな公共建築づくりに資するよう、全国各地の行政の担当者の皆様に参考にしていただける情報をコンパクトにまとめてあります。

日本建築学会としても、他の建築諸団体とも連携して、今後そうした発注者の皆様を支援する仕組みを充実させ、必要な情報を提供し、様々な建築の専門家と行政機関とのマッチングなどを通して、ご協力をさせていただきたいと考えていますので、ぜひこの提言をお役立させていただきたいと思います。

同 前会長 古谷誠章